オピニオン！　上田泰正

日本学生オリエンテーリング連盟による競技力向上への取り組み

日本学生オリエンテーリング連盟
理事長　上田泰正

現在、日本のオリエンテーリングは、大きなチャンスを得ていると同時に大きな岐路に立っているとも言える。4月に開催されたワールドカップに続き、来年はワールドゲームズと立て続けに大きな国際大会を開催し、そして今2005年の世界選手権開催に向けて誘致活動に力を入れている。これら、一連の活動の成果として、世界のオリエンテーリング界や日本のスポーツ界においても主用な位置取りを得ることが出来るチャンスを掴んでいる。何と言ってもマイナースポーツであるオリエンテーリングが、ジャンプアップ出来るのか、それともマイナーで居続けるか、まさに岐路に立っているとも言える。この重要な時期に、日本のオリエンテーリング人口は減少を続け、なんとなく全体として沈んでいる。内部的に沈んでいるのだから、外部の人々が盛り上がるはずも無い。

こんな状況を打破するべく、学連が取り組んできた主たる活動の一つに競技力の向上というのがある。競技力という表現には、競技者個人の力の向上の意味もあるが、むしろ競技会、大会開催能力の向上と言う面が大きい。学連では学生選手権大会（インカレ）の開催を通じて競技力の向上に努めてきた。インカレは今日まで22回開催されているが、その間様々なチャレンジをし、今や国内の大会おいては、他の追随を許さない規模、質の大会となっている。日本における競技スポーツとしてのオリエンテーリングの歴史は、インカレと共に歩んで来たといっても過言ではないだろう。毎回組織される実行委員会にはチャンピオンを決めるレースをするのだから、一年間で最も質の高い競技会を開催しようとの思いが脈々と続き、毎年新しい要素を加えながら素晴らしい大会が開催されている。22回の開催を通じて、山川氏のようなオリエンテーリングのプロの存在も成立させ、地図・コースなどの質を高めて来ているのはもちろん、テクニカルミーティング・チームオフィシャル・裁定委員など、選手権大会としての形を整えてきた。

中でも特筆すべきは、第11回大会以降設けられた観戦者という参加形態であろう。この、見ている人でも楽しいというのが、スポーツにおいては重要であろう。サッカーのサポータに見られるように、競技者自信が実力を磨くのはもちろんであるが、むしろその周辺に居るサポータが競技そのものの支えるという構図は、どのようなスポーツにとっても同様に言えることであろう。

オリエンテーリングにおいては、以前使われた「みんなのスポーツ」と言うキャッチフレーズそのままに、例え全日本チャンピオンを決める大会であっても、全ての人が競技者として参加するという、他のスポーツには無い面を持っている。これがオリエンテーリングの良い点であるのは言うまでも無いが、一般の競技会場において、他の選手が走っている姿を見て楽しむという人は非常に少ない。インカレでは、個人戦・団体戦を通じて、多くの人がゴールレーン、速報ボードの前で応援している。この影には、インカレ実行委員会のイベント担当の役員が毎回、創意工夫しながら頑張って、楽しく観戦してもらおうと努力している事もある。見て楽しくないスポーツは、やってみようかという気にもなりにくいし、当然マスコミも注目しない。その結果、新しい人の参加を阻害し、結果的に競技人口が減少する要因の一つとなってしまう。このような悪循環にはまってしまわないようにするには、常に大会に参加している人に対してより、むしろ始めてオリエンテーリングに接する人に対してどのようなパフォーマンスを見せるかによって、競技人口を増加傾向に変化させることができる。

JOAにおいても、地域のクラブにおいても、普及活動への取り組みが成されているが、もう一つ実績が伴わないのには、この辺りが原因となっているのではないだろうか。

もちろん、世界選手権で優勝するような選手がでてくれば、普及活動のありようも大きく変わるのであるが。それには、選手の育成という大きな課題があり、それはそれで重要な課題ではあるので、別の次元で議論したい。ただ、頂点を高くするには裾野を広げるというのが先決でもあり、是非オリエンテーリングに係わる人々で、このスポーツの楽しさ素晴らしさを知ってもらう企画を進めて行きたいものである。

なお、学連の歴史や学連の組織化に向けた活動については、学連の活動報告書Vol.９に詳しく書かれている。学連の事務局に申し込んで頂ければ、１冊1000円で販売しているのでそちらを参照願いたい。

学連事務局連絡先
〒112-0014
東京都文京区関口3-18-2　目白台芙蓉ハイツ
電話 03-3945-6507